

平成 30 年度

川崎市立中学校 学習状況調査 報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 渡邊 直美

今年度から中学校では新学習指導要領への移行措置が始まりました。2021年度全面実施に向けての見通しをもち、教育活動の質を高めるためのカリキュラム・マネジメントを進めていく年でもあります。新学習指導要領は、急速に進展する情報化やグローバル化など、複雑で予測困難な社会を背景にして、2030年の社会を見据えて作られています。さらにその先も考えながら、学校、家庭、地域など社会をあげて、未来の創り手となる子ども達と向き合っていくことが重要となります。

本市では、2015年度に第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」を策定しました。この計画では、基本理念を「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」と定め、「自主・自立」「共生・協働」を基本目標に掲げ、社会的自立に必要な能力・態度、共生・協働の精神と実践力を育むための取組を進めてまいりました。今年度からは、第2期実施計画がスタートしております。

「かわさき教育プラン」の実現には、教職員だけでなく、保護者や地域など、教育に関わるすべての人々がその方向性を共有し、教育の改善・充実を図るため、生涯にわたって学び続けること、地域の中で共に学び合い、支え合い生きていくことなど、不断に進化していくことが大切です。そのためにも「キャリア在り方生き方教育」の推進は、学習の基盤づくりにも大きな意義があるものと考えております。

川崎市立中学校学習状況調査は、教育プランの基本政策Ⅱ「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を伸ばす」の「確かな学力の育成」に基づき実施しております。各学校において、調査結果等を活用して、生徒の実態を把握し、結果等から教育目標の実現状況や課題となる事項を見出し、子ども達の「わかる」を実感できる授業づくりに役立てることを目的の一つとしております。

今年度の調査結果からは、基本目標に係る質問の数値が向上するなど、「かわさき教育プラン」に基づく取組の成果も見られてきております。各学校におかれましても、引き続き本調査の結果を活用して、実態を的確に把握した上で必要な教育活動を行い、学校教育目標の実現に向けた取組に生かしていただければ幸いです。

結びに、本調査の運営・実施にあたりご尽力いただきました中学校現職教育委員会をはじめとする中学校長会の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成30年度「川崎市立中学校学習診断テスト」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会
会長 井上 総一郎

新しい学習指導要領の全面実施を目前にして、本年度は、移行期間の一年目となります。

新学習指導要領では、「各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、生徒や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくこと」の重要性が示されており、現在、各学校においても、学校の特色を生かしながら指導方法や教育課程編成の改善に努めているところと存じます。

この川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度より市内の全中学生を対象に始まったものです。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り、川崎市立中学校学習状況調査として、2年生においては5教科のテストとともに、生活や学習についてのアンケートを実施しております。

また、その目的を「学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標及び内容の『基礎的・基本的な知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする」こととしております。

このような趣旨を踏まえ、設問につきましては、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に分けて作問、分析を行いました。また、2年生は個人票、1、3年生は自己分析カードによって学習状況や自己の課題を振り返り、生徒が各々の目標をもって主体的に学習することができるようにしております。報告書につきましては、分析、考察とともに、「授業改善への手立て」を示し、今後の授業改善の参考となるようまとめました。

各学校におかれましては、本報告書をご活用いただき、自校の生徒の学習状況を分析、把握していただくとともに、家庭や地域と連携しながら、一人一人の学びを大切にされた授業改善や教育課程の編成等に役立てていただきたいと存じます。

最後になりますが、学習診断テストの実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様に心より感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	9
誤答分析と学習指導上の考察	1 2
2. 社会	2 9
誤答分析と学習指導上の考察	3 2
3. 数学	4 9
誤答分析と学習指導上の考察	5 2
4. 理科	7 3
誤答分析と学習指導上の考察	7 6
5. 英語	9 5
誤答分析と学習指導上の考察	9 8

III 生活や学習についてのアンケート

調査の概要	1 1 3
調査結果と分析	1 1 4
単純集計	1 1 4
クロス集計	1 2 7
各教科の正答率との相関	1 3 5
資料 調査結果集計表	1 3 8

IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

国語	1 4 9
社会	1 8 2
数学	2 2 9
理科	2 4 8
英語	2 9 8
生活や学習についてのアンケート	3 3 3

I 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

(1) 調査実施日

平成30年11月13日（火）

(2) 調査対象人数

中学校 第1学年	9,543人
中学校 第2学年	9,715人
中学校 第3学年	9,699人

Ⅱ 調査結果の概要

